

教育相談に関する 理解を深める



(講師の佐藤カウンセラー)

2月17日(火)、第2回心の教室相談員等及び教育相談担当者合同研修会を市視聴覚センターで開催した。

市内小中学校の生徒指導の現状と課題について、市教委指導主事千葉真郎先生から説明を受けた。その後、本研究所カウンセラー佐藤美希氏より、「子どもの

理解と対応」と題して演習をまじえた講話を頂いた。子どもが安心して話ができる関係づくりには、情報収集が大切である。そのポイントとして①出来事の状態を知る。②家庭での様子を知る。～子どもの暮らしぶりを知る～ ③子どもの生き立ちを知る。～子どもの置かれた環境、歴史から今を考える～ ④その子らしさを知る。～子どもの自尊心をはぐくむ～ の4ポイントを述べていました。



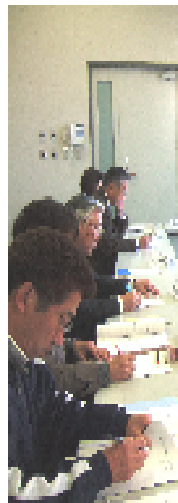
(参集者の皆さん)

演習では、相談の仕方について、養護教諭と相談員による模擬相談のCDを聞き、相違点を話し合い、子どもの理解と対応についての手法を学んだ。

情報交換では、けやき教室所長と心の教室相談員より、相談状況と抱えている問題点について述べて頂いた後に、教育相談の仕方や不登校生徒の指導の在り方について話し合った。特に、「親の理解を得られず兄弟で不登校になっている、現状を打破するには。」という課題について話し合った。特効薬はなく、焦らず地道に継続的な関わりをとおして、対応することが肝要であることを確認し合った。

【相談事業】

- 教育相談については、市広報や当所だより・HP・校長会での呼び掛け等で啓発・広報に努めたが、相談件数の大幅な伸びは見られなかった。啓発・広報活動に工夫を凝らし、なお一層の充実を図って行きたい。
- 特別支援訪問指導は、県費11日で7校1園、市費10日で11校1園を実施し、更に、市費で5日5校を追加する等、指導に対する多くのニーズに対応した。
- 心の教室相談員等合同研修会・連絡会は、専門カウンセラーが講師及び助言を担当し、中身の充実した会であった。昨年度の課題であった市内全校を対象とした合同研修会を第2回合同研修会で実施した。参加者は38名であった。(左記を参照下さい。)



第二回運営委員会報告 今年度のまとめと課題(その二)



【共催・支援事業】

- 学社連携融合研修会並びに協働教育研修会は、今年度も宮城県東部教育事務所登米地域事務所と共催で、放課後子どもプランについて実施した。基調講演・パネルディスカッションの研修内容で、各種分野からの参加者を得て、実りある研修会であった。
- 保・幼・小関連研修会では、保・幼・小から発表していただき、研修の目的を達成することができた。また、今年度は、私立保育所等の参加を得ることができ、登米市の幼児教育の向上についての成果を上げる事ができたと考える。来年度も私立保育所等への参加を呼び掛けて行きたい。

【普及事業】

- 夏休み親子理科教室を県教育研修センター(科学巡回)と共催し、登米小学校で親子58組(昨年の約3倍)の参加で開催した。次年度の活動につながる教室であった。来年度も継続して実施したい。

【研究事業】

- 幼児教育、学校教育、社会教育の3部門5部会で研究を推進し、研究の成果を研究集録としてまとめる事ができ、所定の目的を達成できたと考える。